

南仏治安情報（3月分）

● テロ、反社会的活動、大規模デモ（邦人被害なし）

- (1) A・マリタイム県マンドリウ・ラ・ナプール市における、ジハーディストの逮捕
26日に報道された情報によると、2月11日にカンヌ近郊でジハーディスト1名が逮捕され、その潜伏先アパートで爆発物900gが発見・押収されていたとのことであった。逮捕された男は23歳の仏人で、シリアで聖戦に参加した後帰国しており、捜査当局が行方を追っていた。
- (2) オード県ナルボンヌ近郊発生、聖戦参加とみられる少女失踪事案
15日、ナルボンヌ近郊に住む17歳少女（父がアルジェリア出身）が行方不明となった。シリアに赴くためマルセイユ空港からトルコに出発したのではないかと疑われている。

● 殺人（邦人被害なし）

- (1) BDR県ヴィトロール発生、自動小銃使用殺人事件
20日夜、隣町マリニャーヌからLiourat地区にやって来た30歳男性が、何者か（3名以上とみられている）にカラシニコフなどの銃器で銃撃されて殺害された。被害者に武装強盗の犯歴があること等から、警察は抗争事件とみて捜査を行っている。
- (2) コルシカ島アレリア発生、県議会事務局長殺人事件
23日、アレリアでジャン・レッシア（オート・コルス県議会事務局長）がバイクに乗った二人組の銃掃射を浴びて暗殺された。同人は2011年、公契約に関わる不祥事の容疑及び公金横領容疑で事情聴取を受けたが不起訴となった経緯あり。今回事件によって、公契約に関係する地元の代議員及び公務員は、暗黙の脅迫を感じているとのことである。
- (3) BDR県ランソン・プロヴァンス発生、出所直後を狙った殺人事件
24日、アヴィニョンからマルセイユへ向かうA7高速道路上で、刑務所から出所して帰宅する途中の麻薬取引人男性が、覆面をした者達にカラシニコフで銃撃され死亡した。同乗していた女性は手を失う重傷を負い、その妹も負傷した。なお本件は、4月に同様の手口で殺害された麻薬組織幹部と間違っって殺害された可能性もある。

● 強盗（邦人被害なし）

- (1) 地中海航行中のフェリー内発生、強盗事件
7日未明、コルシカ島バステティア発トゥーロン行きのフェリー内で武装強盗事件が発生した。犯人は船内のバー店員を銃で脅し、金庫内の500ユーロを奪って逃走した。フェリーがトゥーロンに到着した時点で警察が犯人特定のための捜査を開始したが、結局乗船客約60名の顔写真撮影等をして事後捜査に備えるにとどまった。船内からは遺留された銃が発見された。
- (2) マルセイユ発生、帰宅途中女性を狙った強盗致傷事件

10日未明、帰宅途中の19歳女性が、9区路上にてナイフを持った男1名に持っていたバッグを奪われそうになった。女性が抵抗したため犯人は女性をナイフで刺し逃走した。女性は病院に搬送された。

(3) BDR県 Puyricard 発生、侵入強盗事件

11日未明、覆面をした男2名が民家の窓から家の中に侵入し、銃で夫婦を脅しつけ現金600ユーロと携帯電話機を奪い、さらに被害者の車を奪って逃走した。

(4) マルセイユ発生、レンタカーを狙った強盗致傷事件

3月中旬、コルシカ島から来ていた70歳前後の夫婦がサン・シャルル駅前で赤信号のため乗っていた車を停止させたところ、10代の若者2名が車に近寄り、突如無施錠の助手席ドアを開け夫人の髪を引っ張り路上に引きずり出した。さらに犯人は夫人の持っていたバッグをひったくろうとしたが、夫人がこれを離さなかったことから頭部を歩道に打ちつけ、さらにカッターで手を深く切りつけた。夫が車から降りて夫人を助けに来たことから犯人らは逃走した。同エリアには監視カメラが多く設置されていたことから、犯人らは翌日逮捕された。

(5) マルセイユ発生、会社役員を狙った逮捕監禁・強盗事件

28日夜、8区ペリエの自宅ガレージから会社に戻ろうとした31歳会社役員男性が、同所で待ち伏せていた顔を覆い銃を持った2人組に誘拐された。犯人らは男性のポルシェに乗り込み男性を現金自動引出機前まで連れて行き、そこで現金を下ろさせた。犯人らは複数箇所現金を下ろさせた。約1時間後、犯人らと被害者男性の乗ったポルシェは9区内で警察に発見されるも犯人らは警察の追跡を振り切り、さらに現金の引き出しを続けながら街中を移動。被害者は22:30ころオーバーニュで開放された。盗まれたポルシェは、翌日未明にラ・シオタで放火された状態で発見された。

● 傷害（邦人被害なし）

(1) マルセイユ発生、刃物使用路上傷害事件

10日昼過ぎ、15区 Marche aux Puces の路上で25歳男性が何者かに刃物でめった刺しにされ重傷を負った。男性は近くの建物内に避難して犯人の追撃を逃れた。警察が犯人の動機解明を含め捜査を進めている。

(2) マルセイユ発生、銃使用強盗事件

11日未明、14区のシテ“La Busserine”内で20代の男2名が銃撃され負傷し、うち1名が重傷を負った。被害者は2名とも薬物取引、強盗、殺人の犯歴ある人物であり、警察は今回彼らが被害に遭った経緯につき、怪我の回復を待つ本人達から事情聴取する予定である。

(3) BDR県セプテム・レ・バロン発生、薬物取引トラブルとみられる傷害事件

16日未明、La Cite Gavotte-Peyret で麻薬取引を行っていた17歳男が取引相手に脚を銃撃され病院に搬送された。警察が被害者から事情を聴取している。

(4) マルセイユ発生、不法移民グループ同士の諍いによる傷害事件

9日、15区の Marche aux Puces にて、不法移民の2グループがタバコの違法販売の縄張り争いを起こし、一番若い23歳の男が相手側にナイフで刺され病院に

搬送された。刺した男については、24日に犯行現場からさほど離れていない地点において警察に逮捕された。

● 薬物関連

(1) トゥールーズにおける、麻薬密売組織の検挙

7日、憲兵隊が市内ホテルの駐車場に駐めてある車を捜索し、中から麻薬 450kg を押収し、関係者8名を逮捕した。本逮捕は8ヶ月間に渡る捜査の結果トゥールーズ、スペイン、オランダを結ぶ国際麻薬取引網を解明・摘発したものである。29日に本件予審が行われ、この一味がこれまで500kgに及ぶ大麻樹脂やコカインを年間10~15回「ゴー・ファスト（高速車を用いた麻薬輸送）」で搬送していたことや、取引先の支払いトラブルから誘拐・監禁を行っていたことも明らかになった。

(2) モンペリエ近郊における、大麻の押収

司法警察は3月中旬、モンペリエ周辺を走行中の不審車両の車内から、末端価格20万ユーロ(45kg)の大麻を発見・押収した。車両の運転手は仏人で、今回スペインから「商品」を輸送している最中であつた。当局はこの男の他に別の車2台に乗っていた男達も共犯者として逮捕した。

(3) マルセイユにおけるコカインの押収

司法警察は18日、内偵捜査の末薬物の隠匿場所である15区 La Castellane の民家ガレージに対する捜索を実施した。その結果、同所から販売用に小分けされたコカインの他ポンプ銃を押収するとともに、ガレージのオーナーとその共犯者を逮捕した。

● その他特異事件（邦人被害1件）

(1) モンペリエ周辺頻発、郵便局の金庫破り犯の検挙

4日、警察当局はモンペリエのロマン人キャンプに対する一斉捜索を実施した。同捜索の目的は、最近モンペリエ、アレス、イストルで頻発している郵便局を狙った金庫破り事件の犯人検挙であつた。当局は10名程度の被疑者を捜索したが、この日はうち2名の身柄を確保したに留まつた。本件被害総額は5,000ユーロに上つていた。

(2) エロー県セット発生、IDカード在中小包の盗難疑惑事件

7日、セットの自治体で交付すべきフランス人IDカード30枚が印刷所からの配送過程でなくなつていたことが判明した。本件は、2月に印刷所で作成されたIDカードが他の小包とともに自治体に配送された際、IDカード在中小包1個がなかったことに受取人が気付かなかつたことから発覚が遅れたものであつた。この自治体では年間4,000から5,000枚のIDカードを交付しているが、このようなケースは初めてのことで、窃盗事件か単なる遺失案件なのかを含め捜査中である。

(3) オーバーニュ発生、窃盗未遂事件

11日未明、偽造ナンバーをつけた車で商業施設にやって来た3人組が衣料品店のシャッターをこじ開け店内に侵入しようとした。しかし泥棒の侵入を察知した警察が現場に急行したところ、物色を諦め車で逃走した。

(4) オート・ガロンヌ県発生、放火事件及び銀行の金庫破り事件

16日、電話機中継設備が何者かに放火され、ベスイエール、ヴィルミュール・スュール・タルヌの住民5,000人が電話・インターネットを使用できなくなった。犯行現場には葡萄酒生産者活動地方委員会(C r a v)の署名が残されていた。C r a v責任者は第三者が署名を悪用したと主張している。

なお、この火災発生中にベスイエールにあるクレディ・アグリコル銀行の地下貸金庫室にトンネルを掘って複数名が侵入して金庫を荒らしており、警察は2つの事件の関連を捜査中である。

(5) マルセイユにおける、隠匿されていた銃器類の発見

17日午後、13区Olivierにある建物の屋根部分に銃器類が隠匿されているのを機動隊が発見・押収した。

(6) 【日本人被害報道】カンヌ発生、観光客を狙った置き引き事件と被害回復

18日朝、日本人観光客の夫婦がホテルの朝食バイキングにて置き引き被害に遭った。夫が財布を自分の椅子に置いて食事を取りに行っている間にキューバ人3人組に盗まれたもので、席に残っていた夫人は男らの犯行に気付いたものの、1人で為す術がなかった。その後、犯人を追跡してくれた他の客や監視カメラ映像、警察当局の迅速な対応等のおかげで犯人は逮捕され、被害男性は無事財布を取り戻すことができた。

(7) マルセイユにおける、公文書偽造犯人らの検挙

18日、5区内にあるアパートで偽造の仏人IDや滞在許可証を作成・販売していた40～50代の男3名が逮捕された。当局は昨年末から同グループの摘発に向けた捜査を継続していた。

(8) マルセイユ発生、重機使用による現金自動引出機荒らし未遂事件

26日早朝、15区Lucien-Frappasの路上に設置されたラ・ポストの現金自動引出機が何者かに破壊された。犯人は盗んだパワーショベルを用いて引出機を破壊し、中にある現金を奪おうとしたが、うまくいかずそのまま逃走した。

※ ここに掲載した事件は新聞等の公開情報を基にまとめておりますが、掲載した事件以外にも日々各種事件が発生していることを申し添えさせていただきます。